

八千代市郷土歴史研究会の思い出

藤 由美

八千代市郷土歴史研究会も半世紀、50周年を迎えました。私が仲間に入れていただいたのは1988年、当会15周年のころ。「市民文化祭—八千代市内の古道」の案内に惹かれて、たまたま勝田台文化プラザ2階の展示室に立ち寄ったのがきっかけでした。

そのころの会の活動は、古道調査のほか、旧村勝田の総合研究、野馬除け土手の調査など実績を重ね、新たに「八千代八福神めぐり」設置を企画していた時でした。

会員の車に同乗してまわった市内の八ヶ寺とその周辺の史跡や風景は、単に歴史好きというだけで会員になった新住民の私には、初めて知るミステリーな世界でした。

1992年、事務局を担っていた原令子副会長が逝去され、牧野さんを皆で支える新たな事務局が再出発。1990年からの「八千代の歴史散歩道」シリーズは、新会員でもできる身近な企画として好評でした。毎年の宿泊研修も恒例になり、75年に一度の茨城県「東・西金砂神社大祭」見学や出羽三山めぐりは、忘れられない貴重な体験になりました。

そしてこの「歴史散歩道」シリーズは、石造物などから古道を復元する学術的な「道標からよみがえる八千代の古道」研究へと発展し、市内道標の悉皆調査という一大事業となって、2001年の『ふるさと発見 八千代の道しるべ』の刊行に結実しました。

草むらを分けて道標を探し拓本を採り、古老に昔の道を訊き、迅速図に古道を記入していく作業は楽しく、毎週末のフィールドワークが、勤め人の若い会員や私にとってとても待ち遠しかったです。

また単に調査するのではなく、新木戸三叉路の「血流地蔵道」道標を掘り起こし復元したこと、倒れていた島田台の木下街道の題目塔道標を、会員総出で再建したことなどは、行動する郷土史研の力が最大限発揮してできたことでした。



島田台の「題目塔」道標の建て直し作業が終わって

道標と古道調査に会の力を出し切ったあと、会の活動は「旧村の総合調査」へ。旧村ごとの綿密な調査で多くの新発見や体験があり、中でも本年の八千代市文化財指定につながった保品東栄寺の「伝薬師如来像」の調査、神野の土井昭雄家所蔵板碑群の発見は、注目すべき事績となりました。また、寺社の奉納句額の調査からは、近世・近代の地域の文人たちの活動が、古文書研究では、江戸時代後期の八千代市内の農家では、通説の長男相続ではなく、初生子相続（姉家督）であることが明らかになっています。

今後も、新たな発見の喜びを仲間と共有する会になりますようにと祈ります。